

ぶら研

「すんくじら」

令和6年度 志和池小 校長室から ぶらっと研修 2

5月7日 文責 田爪

ポジティブ行動支援

授業を始める前、どちらに目がいきやすいですか。

A→走っている子ども

B→座っている子ども

多くの先生は、Aに対して目がいくことになるでしょう。しかし、それは教師であれば当然のことでしょう。学級内の安全が脅かされていますから。このあと、当然、子どもに対する注意や叱責などがあるでしょう。

Bについてはどうでしょう。その場面において適切である望ましい行動（ポジティブな行動）を行っています。しかし、教師は、この行動を「当たり前」の行動であると思ってしまうことがあります。

当たり前と思ってしまうことによって、ポジティブな行動をしている子たちには目がいかず、その子たちに声をかけていないということがよくあります。

ポジティブ行動支援とは、問題行動がこれから起きないようにするのではなく、

ポジティブな行動に目を向けて、その行動を承認、賞賛し、その行動がこれからも実現するように、増えるように支援の方向性を変えていくこと。



とりあえず、5つ…。6つめ以降は次回…。

- ① 問題行動に目がいきやすい自分を意識する！
- ② ポジティブ行動支援は罰に頼らない支援
- ③ ポジティブな行動を増やすことで問題行動を減らす
- ④ 「当たり前」は最大の敵であることを意識する
- ⑤ 子どもの実態にハードルを合わせて、子どものがんばりを見取る！

～支援員の日誌から～

昨日の忘れ物はしっかり持ってきており、ハイタッチした。…

～略～